

# 港湾振興便り



2025.12

第223号

\*:\*\*

## 目 次

\*::~

### 1 ポートエッセイ —物価高騰が続いた2025年—

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

### 2 トピック

#### ●「ザ・シンポジウムみなと in 十勝」を開催しました

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

#### ●海外9か国・地域の高校生が 仙台港を視察しました

(東北地方整備局 塩釜港湾・空港整備事務所)

#### ●「たてやま海まちフェスタ2025」に参加

(関東地方整備局 千葉港湾事務所)

#### ●地元の小学生を対象に「港の大研究」の授業を実施しました

(近畿地方整備局 舞鶴港湾事務所)

#### ●ベイサイドビーチ坂 スポーツフェスタ 2025

(中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所)

#### ●「宇野港みなと親子学習会」を開催しました

(中国地方整備局 宇野港湾事務所)

#### ●第6回室津港釣り大会を開催！

(四国地方整備局 高知港湾・空港整備事務所)

#### ●畜産が盛んな鹿児島県曽於市の深川小学校で出前講座を実施しました！！

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

\*:

## 1 ポートエッセイ ―物価高騰が続いた2025年―

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

\*:

早いもので年末を迎えようとしている。振り返ると、本年も港湾関係者の皆様のご尽力により、港湾の整備促進、港湾振興の推進に関わる活動を実施できた。感謝申し上げます。

さて、高市内閣が発足して間もない10月に「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が開催された。例年同様、港湾関係者約1000人が参加しての大会となった。大会には、就任早々初めての公務として金子交通大臣の臨席を賜り、ご挨拶をいただいた。挨拶では「港湾は強い経済を支えるインフラであり、地方の暮らしの安定、基幹産業の活性化、サプライチェーンの強化、防災・減災による国土強靱化等の港湾施策を全力で進めていく。国土交通省としても必要な予算を確保していく。皆様の支援・協力をお願いしたい」旨の発言があった。金子大臣は港湾行政に関わる経験が豊富であり、精通されている。今後も港湾に対するお力添えをお願いしたい。

大会では、「持続的な経済成長の実現」「国民の安全・安心の確保」「個性をいかした地域づくり」と持続可能で活力ある国づくりの3項目についての実現を図るために必要な予算が確保されるよう求めた「港湾の整備・振興に関する要望書」が決議された。要望書の最後には「労務費確保の必要性や近年の資材価格高騰の影響等を考慮した公共事業等の実施に必要な経費の確保」も盛り込まれた。

この資材価格・労務費高騰については、「港づくり全国大会」の前に開催された「自民党港湾議員連盟総会」においても、議員の方々から「公共事業において資材価格・労務費高騰により様々な弊害が起きている。予算措置において考慮する必要がある」等の意見が出されていた。対策が急務となっている。

高騰は資材価格・労務費だけに留まらない。2025年は、食料品とエネルギー価格の高止まりが家計を直撃し、多くの人々が「給料は上がっても生活は楽にならない」と実感した。高市内閣は「責任ある積極財政」を掲げ、物価高対策を最優先課題に位置づけ、ガソリン税の暫定税率廃止や電気・ガス料金の補助、子育て給付などの政策を進めようとしている。家計支援の即効性に期待したい。

最後に、会員の皆様が良い年を迎えられますよう、来年が良い年でありますよう祈念いたします。

\*:\*

## 2 トピック

\*:\*

### ●「ザ・シンポジウムみなと in 十勝」を開催しました

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

本シンポジウムは港湾の重要性や必要性を広くPRすることを目的に、一般社団法人寒地港湾空港技術研究センターや、北海道開発局などの実行委員会が主催し、『産直港湾・十勝港の活用拡大に向けて』をテーマとして令和7年11月27日(木)に帯広市民文化ホールにて開催されました。

はじめに、株式会社セコマの丸谷智保取締役会長より『島国北海道～海上物流の重要性～』と題して、セイコーマートでの事例も踏まえた北海道で海上輸送がもつ役割の重要性や物流の効率化、災害時の物資輸送の課題などについての講演がありました。

続いて、広尾町の田中靖章町長、北海道十勝総合振興局の野口正浩局長、株式会社セコマの丸谷智保取締役会長、DP World Japan株式会社の藤江成宏代表取締役社長、日清製粉株式会社業務本部の河辺肇グループリーダー、池下産業株式会社の池下藤一郎代表取締役社長のパネリスト6名によるパネルディスカッションでは、十勝港のコンテナ航路の利用状況や十勝地域の基幹産業・物流の現状、コンテナ利用拡大に向けた課題、今後の利用拡大に必要な方策の提言について活発な意見が交わされました。

また、当日は港湾管理者の広尾町が企画した海上輸送用リーファーコンテナの実物提示も会場外で実施され、十勝港コンテナ船定期航路について地域の方々に広く知っていただく機会となりました。



講演の様子



パネルディスカッションの様子

●海外9か国・地域の高校生が 仙台港を視察しました

(東北地方整備局 塩釜港湾・空港整備事務所)

11月26日(水)、『『世界津波の日』2025高校生サミット in 仙台』の開幕を前にスタディツアーが行われ、海外の9か国・地域の学生ら約60名が仙台港を視察しました。

NX 仙台港パークや高砂コンテナターミナルを巡り、東日本大震災当時の仙台港区の被災状況や復興の歩みについて説明を行いました。

参加者からは「復旧はどのような行政の体制で行われたのか?」「被災前と比較して港湾機能はどう変わったのか?」など積極的な質問が飛び交い、防災や復興について理解を深めていました。



NX 仙台港パークでの説明の様子



学生の質問に対応する様子



●「たてやま海まちフェスタ2025」に参加

(関東地方整備局 千葉港湾事務所)

10月19日(日)、たてやま海まちフェスタ実行委員会、館山市主催の「たてやま海まちフェスタ2025」が開催されました。千葉港湾事務所では、みなとの役割についてパネルを使ってPRを行いました。

「たてやま海まちフェスタ」は、千葉県の館山湾を活用した海辺のまちづくりを推進するため、海や船に触れ、海の魅力を満喫するためのイベントとして毎年開催されています。

今年は「“渚の駅”たてやま」とその周辺を会場として、シーカヤックなどの乗船体験会や、ダンスステージ、海に関する各団体の活動紹介コーナーなど、盛りだくさんのイベントが開催され多くの来場がありました。

当事務所はメイン会場である“渚の駅”たてやま館内で我々の暮らしを支える港の役割についてのパネル展示を行い、貿易の主役は船であることや、港に来る船舶について説明を行いました。

説明を熱心にお聞きいただいた皆様から「普段は陸から東京湾を航行する船舶をみているが、色々な船が出入りしている」ことや「外国との貿易ができないと必要な物が無くなってしまう」などの感想があり、港の重要な役割について理解を深めていただくことができました。



“渚の駅”たてやま(入口)



パネル展示の様子



館山市マスコットキャラクター「ダッペエ」登場

●地元の小学生を対象に「港の大研究」の授業を実施しました

(近畿地方整備局 舞鶴港湾事務所)

国土交通省港湾局が監修する小学生向けの港湾学習教材「港の大研究」は全国の希望する小学校に副教材として配布されており、要請があれば最寄りの各港湾事務所が現場見学の開催や職員を派遣して授業を行うといった取り組みを実施しております。

令和7年11月17日、滋賀県の小学校からの要請を受け、舞鶴港湾事務所の若手職員により「港の大研究」に関する授業を実施してまいりました。

授業に先立って、児童の興味を引きそうな話題を織り交ぜつつ、貿易や港の大切さが伝わるような資料を作成し、当日はパワーポイントとDVD、「港の大研究」の教材など様々な資料を用いて授業を行い、楽しい時間を過ごしてもらうことができました。

今回の授業を機会にたくさんの児童が港に興味を持てただけを期待しております。



授業の様子

## ●ベイサイドビーチ坂 スポーツフェスタ 2025

(中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所)

令和7年11月23日(日)に「ベイサイドビーチ坂 スポーツフェスタ2025」が開催されました。ベイサイドビーチ坂スポーツフェスタは、ビーチスポーツを通じた交流により、みなとの賑わいづくり、利用促進、地域活性化を目的として毎年秋に行われているもので、みなとオアシスベイサイドビーチ坂の代表イベントの一つとなっています。

当日は、爽やかな秋晴れのなか、大会委員長の吉田坂町長の挨拶、参加者全員でビーチの清掃活動を行った後、ビーチバレー、ビーチサッカー、ビーチテニス、ビーチフラッグス及びビーチサンダル飛ばしの各競技で熱戦が繰り広げられ、老若男女たくさんの方々が楽しく交流する一日となりました。

中国地方整備局からも職員が参加し、イベントを盛り上げました。



開会式



ビーチ清掃活動



ビーチテニス体験会



ビーチサンダル飛ばし



●「宇野港みなと親子学習会」を開催しました

(中国地方整備局 宇野港湾事務所)

令和7年11月8日(土)に岡山県の宇野港において、小学生とその保護者21名を対象としたイベント「宇野港みなと親子学習会」を、工事受注者の天野産業株式会社とともに開催しました。

本学習会は、地域の親子に「みなと」や「港湾工事」に関する理解や関心を深めていただくことを目的としており、宇野港湾事務所職員による、「みなと」についての学習と宇野港の海上見学に加えて、天野産業株式会社による、港湾工事で使用される新技術の仕組みの体験と、鋼管矢板打設工事の現場見学を行いました。

参加者は、担当者のアドバイスを受けながら体験機器を操作することにより、ICT 技術を身近に感じる事ができた様子であり、ICT 技術を活用した工事の省力化への理解を深めていました。また、港湾業務艇「たましおⅡ」に乗り、海から地元の「みなと」を眺める経験や、迫力ある港湾工事の現場を見学することで、参加者が「みなと」について興味をもつきっかけとなればと思います。



「みなと」についての学習(紙芝居)



新技術体験(トイドローン)



海上見学(宇野港についての学習)



工事概要説明・現場見学



●第6回室津港釣り大会を開催！

(四国地方整備局 高知港湾・空港整備事務所)

令和7年11月8日(土)に高知県室戸市の室津港にて今年も釣り大会が開催されました。

本大会は避難港整備事業で整備した作業ヤードを、広く地域振興にも活用するために、主催の(一社)室戸市観光協会をはじめ、地元関係者等で企画されているイベントです。令和2年から毎年開催されており、今年で6回目となりました。

当日は肌寒い中、早朝から約20名が参加し、中谷衆議院議員をはじめとして来賓の皆様のご挨拶の後、自前の道具を持って、それぞれポイントに移動し釣りを開始しました。「釣れようかよ?」、「ようけ釣れちゅうやか!」等々、参加者同士の会話も聞かれる中、5 時間程釣りを楽しみました。

なお、当事務所においては港湾施設の利活用の観点から、大会の後援として名を連ねており、本大会においては昨年同様、パネル展として須崎港におけるブルーカーボンの取り組み事例について紹介しました。

集合写真



パネル展示の様子



釣り大会の様子



釣果の様子



●畜産が盛んな鹿児島県曾於市の深川小学校で出前講座を実施しました！！

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

令和7年11月6日(木)鹿児島県曾於市立深川小学校の3年生～6年生24名を対象に港の重要性や大切さについて知ってもらうために出前講座を実施しました。

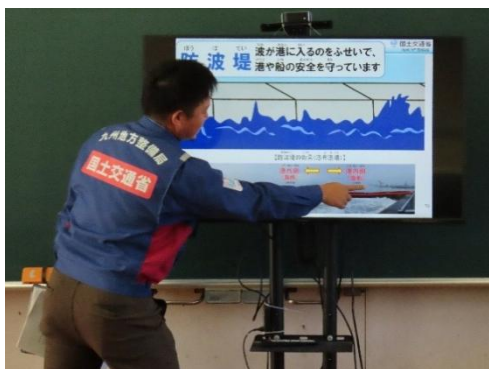
本講座では、内陸部に位置する同小学校の児童に対して、志布志港の動画を用いて、我々の暮らしに関係する港が実際にどのような役割を果たしているか、また港でどのような仕事が行われているかについて学んでもらいました。

また、同地域は畜産業が基幹産業であるため、畜産業に必要不可欠な飼料を製造するためにも港が必要であることを知ってもらいました。

特に反応が良かったコンテナターミナルの動画では、ガントリークレーンがコンテナを積んでいる映像を見た生徒達から「UFO キャッチャーみたい」「ガンマンってすごい」などの声があがり興味津々の様子でした。

このような活動を通して子どもたちが港を知るきっかけになり、より身近に港を感じてもらえることを期待しています。

今後とも多くの方々に志布志港や港湾の仕事について興味・関心を持っていただけるよう PR 活動を継続してまいります。



(全力で説明している様子)



(三択クイズで大盛り上がり)



(ガントリークレーンに釘付け)



(生徒から鋭い質問を受ける様子)

\*:\*:\*: 本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先 :\*:\*:\*:\*:

日本港湾振興団体連合会事務局

〒105-0002 港区愛宕1-3-4

TEL : 03-5776-0630 FAX : 03-5776-0631

e-mail : [bcf06323@nifty.com](mailto:bcf06323@nifty.com)

\*: